令和7年度　自己評価及び学校関係者評価書

1　今年度の重点目標

一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校の創造

2　本年度の経営方針

「児童支援の推進」「課題探究的な学習の推進」「自治的な活動の推進」「地域・外部機関との連携の推進」

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	考える子 美しい心の子 仲のよい子 強い子	子どもが「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに取り組んできたか。	A	【アンケートによる数値】 児童アンケートにおいて「学校が楽しい」、「友達と協力できる」の項目が高い数値を維持しており、安心できる居場所が確立されている。また、保護者アンケートでも「学校で子どもがいきいき活動している」の肯定率が非常に高く、学校経営の重点目標はおおむね達成された。次年度は「楽しさ」は十分に達成された一方で、「難しいことにもあきらめない」等の主体性・粘り強さに課題が見られる。次年度は、「50周年に向けた5つの改革」を通じ、環境をよりよく整備することで、子どもたちが自ら壁を乗り越える機会を意図的に創出する。	A	A
学校関係者評議員による意見	児童・保護者アンケートの結果から、学校が「安心できる居場所」として確立されており、子どもたちが生き生きと活動している様子を高く評価します。主体性や粘り強さに課題が見られる点についても、学校側が的確に分析しています。次年度の「50周年に向けた5つの改革」を通じて、環境を整え、子どもたちが自ら壁を乗り越える機会を意図的に創出していく取組に大きな期待を寄せています。					

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
人間尊重の教育	児童支援の推進	いじめ防止等に向けて児童支援委員会を中心に情報共有と方向性の確認を定期的・即時的に取り組めたか。	A	【組織的な即応体制】 いじめ等の事案に対し、担任単独ではなく組織として即日対応・継続的な見守りを行う体制が定着した。不登校児童への支援も含め、個に応じたきめ細かな対応により「重篤な事態」を未然に防ぐことができている。 【早期発見・予防の継続】 引き続き、児童支援委員会での情報共有を形骸化させず、潜在化しやすい事案へのアンテナを高く保つ。次年度からは「全学年クラス替え」を実施するため、4月の段階から人間関係の把握と良好な関係構築に全教職員で注力し、新たな集団での居場所づくりを支援する。	A	A
「学ぶ力」の育成	子どもの声を引き出す	つながりを生み出す授業を展開できたか。	B	【表現力の向上と課題】 アンケート「自分の考えを発表できた」は良好だが、「自分で計画を立てて学習する」が低調である。「声を引き出す」授業実践は進んだが、子ども自身が学習の見通しをもち、粘り強く取り組む場面の設定に課題が残った。 【基礎基本と教員研修の充実】 書く力の定着を図るため、3年以上も「漢字ワーク」を導入したり、朝活動、宿題や家庭学習を工夫したりすることで集中力と基礎学力を底上げする。また、定期的な「一斉下校」を設定して教職員の研修時間を確保し、子どもが夢中になる授業づくりの準備と質の向上に還元する。	A	A
「豊かな心」の育成	聴き合う集団づくり	「おもしろい！」をベースにチャレンジ精神をもち続けたか。 支持的風土のある学級づくりができたか。 節目ごとに目	B	【協働性は高いが固定化も】 「友達と協力できる（3.4）」の数値通り、仲の良い集団づくりは進んでいる。学校行事もねらいに達成する子どもたちの姿が見られた。しかし、人間関係が固定化し、特定の関係性の中でのみ安定している傾向も見られ、多様な他者と関わる力の育成には伸びしろがある。 【多様な関わりの創出】 「全学年クラス替え」により、毎年新たな人間関係を構築する経験を積めるようにしていく。また、新たに「たてわり活動」**を導入し、学年を超えた	A	A

		標を設定し、振り返りながらリズムを生み出すことができたか。 「あいさつ」と「思いやり」の輪を大切にした自治的な活動を仕組んでいったか。		縦のつながりの中で、高学年のリーダーシップと低学年のフォロワーシップ（憧れ）等、思いやる心を育む。		
「健やかな体」の育成	授業等の導入や場の設定を工夫することができたか。 体育的行事の充実を図ることができたか。 朝や休み時間に運動機会の充実を図ることができたか。	「おもしろい！」をベースにチャレンジ精神をもち続けたか。 計画的に学級活動での指導機会を位置付け、意識の醸成や行動の変容を促すことができたか。	A	【習慣化の定着】 朝活動におけるなわとびや外遊びの奨励により、日常的に体を動かす習慣が定着している。今年度から導入した「なわとびカード」が効果的であった。体育の年間を通した取組、保健や学級活動による計画的な健康教育、給食時間を活用した食育教育なども大きな効果が表れている。ただし、一定数体を動かす機会がほとんどないという回答もあった。（生活アンケート） 【生活リズムの安定】 次年度も年度初めの1・2年生の日課（午前授業・5時間授業）を柔軟に設定し、無理のない生活リズムの定着を最優先する。さらに全学年、適応期間として学期始まりを緩やかな授業時間にしていく。また、心身の健康維持を図るために保護者との連携も高めていく。	A	A
自治的な活動	学級活動・委員会・クラブ等の充実	「おもしろい！」をベースにチャレンジ精神をもち続けたか。	B	【活動の活発化と課題】 委員会活動等は定着しているが、アンケート「難しいことにもあきらめない」の低さが示す通り、困難に直面した際の粘り強さが不足している。「自分たちで決めて動く」という真の自治を目指すが、児童に丸投げするのではなく、まずは教職員が導けるような関わりを継続していく。また、子どもたちがやってみたいという声を後押しできるような支援を行っていく。 【高学年への重点支援】	A	A

				水曜日の日課を変更し、「高学年が輝く水曜日」として委員会・クラブ活動の時間を拡充する。全教職員で高学年を指導・支援する体制を整え、学級活動と児童会活動のリンク（つながり）を意識できるようにし、まずは実態に応じた選択肢等を与え、最終的には自己決定の場を増やしていく。		
学校関係者評議員による意見	● 人間尊重・学習：いじめへの組織的な即応体制や、自分の考えを発表できる児童が増えている点は非常に心強いです。学習面では「漢字ワーク」の導入など、デジタルだけでなく手書きによる基礎基本の定着を大切にする取組を継続してください。 ● 豊かな心・健やかな体：新たに導入される「たてわり活動」により、学年を超えた交流の中で思いやりの心が育つことを期待します。運動への苦手意識を減らす工夫や、家庭と連携した生活リズムの安定についても、引き続き重視して進めていただきたいです。 ● 自治的な活動：委員会やクラブ活動において、高学年が「おもしろい！」と感じながら主体性を発揮できるよう、先生方が適切に支援・指導し、自己決定の場を広げていく体制の充実に期待します。					

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校独自に設定する分野	児童の安心安全	児童の所在、学級の様子等に関する情報の共有	A	日頃より校内限定のチャット機能を活用し、教室で所在が把握できない児童に対して職員室と連携したり、遅刻登校を授業中の担任に即座に連絡したりする等ができた。また、学級で人手が必要な際も職員室の職員が即座にサポートへ行くことができた。今後はこの機能に頼るのではなく、保護者の皆様と連携し、事前防止を心がけていく。また、朝の登校指導により子どもたちの登校時に担任が教室に不在というケースも見受けられるため、次年度は教室で出迎えることを大切にしていく。	A	A
	専科指導や少人数指導、一部教科担任制の導入	児童一人に対して複数の教職員が関わり、児童の可能性を広げる取組	A	学年の実態や発達段階に応じて、担任の授業にサポートに入ったり、学年の学級数に＋1をして少人数指導を取り入れ、一人一人の「できた・わかった」の「実感」を得ることができた。また、専科指導になることで教職員の教材研究の質も高まり、児童に還元できるようになってきた。しかし数値等で比較すると「実感」と「結果」が必ずしも結びついているわけではない。そのため、更なる授業改善や家庭との一層の連携、子どもたちの意欲や目標設定の向上意識に取り組んでいく。	A	A

	働き方改革	カリキュラムマネジメントの推進及び即時反省による業務の改善	A	記憶よりも記録を大切にすることで子どもたちの本当に必要である業務に力を注げられるようになってきた。さらにその記録をクラウド活用で共有することで、誰でも効果的な指導が可能となっている。また、取組後に次年度を見通した計画を立てることで年間通しての見通しをもてるようになった一年になった。	A	A
学校関係者評議員による意見	チャット機能を活用した迅速な情報共有とサポート体制は、児童の安全確保において非常に有効に機能しています。朝の登校時に担任が教室で児童を出迎える方針も、安心感につながる大切な取組です。少人数・専科指導による手厚いサポートを継続し、個に応じた教育の質をさらに高めてほしいと考えます。働き方改革による業務効率化を誇りにもち、そこで生み出された時間を子どもたちと向き合う時間や質の高い教材研究に還元していく取組を支持します。					